



英語教育推進リーダー研修を終えて

北海道名寄市立中名寄小学校 久保 稔



はじめに

小学校の教員になって10年が経ちました。これまで小学校の英語教育に関わって、さまざまな経験を積ませていただきました。その中で、昨年度参加した「英語教育推進リーダー研修」、それを地域に普及させるための研修実習、大学での非常勤講師などを通して学んだことを述べたいと思います。



中央研修で学んだ新しい視点

現在、小学校の外国語教育の正式教科化に向け、検討および条件整備が進められていますが、現場教員の中から、地域の英語教育を推進するリーダーを養成するために、外部専門機関と連携して実施されているのが、「英語教育推進リーダー中央研修」（以下、中央研修）です。5年間で全国で約千名が研修を受けるこの事業で、私は第1期生として、平成26年度の中央研修に参加しました。

中央研修は、集合研修Ⅰと集合研修Ⅱからなり、都内で各5日間の日程で行われました。私の勤務する北海道は東北地方とともにグループ①に属し、北関東に富山県を含めたグループ②と一緒に、合計47名と一緒に、英語力の向上や教授法の習得を目指した研修を受講しました。

具体的な研修内容としては、教室英語や歌の活用に加えて、絵本の読み聞かせや発音とつづりの関係（フォニックス）などがありました。この5日間の研修プログラムは、文科省と委託先のブリティッシュ・カウンシルが共同開発したもので、すべての講座を同機関勤務のネイティブ・スピーカーの講師が担当し、すべて英語で行われました。

研修プログラム自体もしっかりしており、たいへん多くのことを学ぶことができました。その中で、これまで受けた研修にはない「新しい視点」がいくつかありました。

1つめは、歌を指導するときに、CDを使わないというアプローチです。CDを使わないことで、速さを自由に調節することができたり、特定の部分を練習することができたり、児童を歌に集中させたりすることができそうです。もちろん、原曲を聞いてリズムや発音の仕方を理解することも重要です。しかし、大切なのは、児童の実態や場面に応じて指導方法を柔軟に変更するということです。その意味で、この手法を知ることで、自分の指導方法を広げることができました。

2つめは、絵本を指導するときに、一言一句、教師が正確に読む必要はないということです。これまで私自身、絵本に出てくる単語や表現をすべて読んでいましたが、挿絵の言葉やいくつかの表現を扱うだけで、児童は内容を理解し、単語や表現を覚えることができることを体験しました。また、発音や抑揚に気を付けたり、動作を付けたりすることで、子どもたちを物語の世界に引き込み、聞く力などの向上につながられることがわかりました。

3つめは、アクティビティのメリットとデメリットを把握することです。先に挙げた歌の活用のように、どの活動にも多かれ少なかれメリットとデメリットがあります。指導する側はそのことを理解し、活動の意図を明確にするとともに、子どもたちに目標や目的を持って取り組ませることが重要になります。



地域での研修実習の講師として

中央研修に参加した教員は、その研修内容

を地域に伝える役割を担います。私の地域では、今年度、昨年12月から1月にかけて、各校で英語教育の中核となる教員に対して、英語指導力の向上を図ることを目的に研修を実施しました。私が講師を務めた研修では、実際に活動を体験したり参加者どうしでディスカッションしたりすることを通して、少しでも各自の引き出しが増えること、参加者のつながりが深まることを意識しました。研修は8つのセッションに分かれており、計14時間、3日間の日程で行いました。以下がそのときの研修内容です。

- 教室英語 ○ALTとの打ち合わせ
- 単語や表現の学習 ○絵本の活用
- アルファベットの音声 ○歌の活用
- 授業指導案の作成
- 他教科等と関連させた活動

参加者は、英語の免許を持っている方から教務の方などさまざまでした。そのため、先生方のニーズも多種多様でした。この研修実習は、地域の全小学校から1名参加するまで行われる予定です。今後の研修でも、先生方のニーズに少しでも応えることができるように、研修の進め方を工夫していきたいと考えています。



地域研修で講師を務める筆者（左上）。「絵本を活用した指導法」では、参加者が自ら選んだ絵本を使って読み聞かせを行った

大学での 非常勤講師の経験から

今年度より、北海道教育大学旭川校で非常

勤講師を務めています。全15コマの内、外国語活動に関わる理論的な部分を大学の先生が担当し、小学校で実際に行われている外国語活動の実践的な部分を私が担当しています。ここでも、活動とディスカッションに重点を置くなど、中央研修で学んだことを生かして講義を行いました。

大学の授業では、大学生が、小学生に戻ったように楽しそうにアクティビティに取り組む姿が印象に残りました。教員にとって、「子どもの立場になって考えてみる」ことは、たいへん意味あることです。日々の業務に忙殺されて忘れがちな中、大学生の活動する姿を見て、子どもの視点に立つことの大切さに改めて気づかされました。

また、模擬授業やディスカッションの様子を見てみると、学生ならではの斬新なアイデアや新鮮な考えに触れることもできました。「教学半」という言葉がありますが、講義をしている私が大学生から教わることがたくさんありました。大学での講義は来年度以降も担当することになっています。講義を通して学んだことを、子どもたちへの授業に生かしていきたいと思っています。



おわりに

昨年10月、中央研修に参加した他県の先生方と懇親会を行いました。外国語活動の授業についての悩み、研究会の情報交換、研修実習の様子交流など、途切れることなく話は続きました。英語拠点校での勤務だったり、英語専科としての指導だったり、立場はそれぞれですが、どの先生も児童一人ひとりのことを考え、実践を積み重ねています。そんな素晴らしい先生方と出会えたことに、幸せを感じています。

困ったときには助け合える、互いに刺激し合い成長できる仲間との関係を励みに、これからもよりよい授業のために研鑽を続けていきたいと考えています。